

★あけぼの★

No. 7 令和4年11月14日 校長 加納 雅義

子どもが主役！「みなみこども祭り」

10月23日（日）にみなみこども祭りを行いました。当日の午前は、わくわく班（学年縦割り班）ごとに、委員会活動の5、6年生、PTAの皆様が作った遊びのコーナーを回って楽しみました。午後は保護者と子どもの作品鑑賞を地域割りで行いました。



午前の活動では、子どもが生き生きと活躍する姿が見られましたので紹介します。午前の活動は「わくわくチャレンジ」と称し、委員会活動ごとに、ボーリングやクイズ、宝探しなどの遊びを工夫してみんなが楽しめるようにアレンジしたコーナーを設定しました。前半が6年生、後半を5年生が担当しました。大変感心したことは、来てく

れるわくわく班の友達が楽しめるように、言葉掛けを工夫したり、動きの動線を考えたりしながらよりよい運営に心掛けていたことです。回数を重ねるごとに子ども同士の連携が図られ運営の質が高まっていきました。

そのときの子どもたちは、教師の言われたとおりにしていたのではありません。マニュアル通りに伝達しているのではありません。一緒に運営する子どもたちがねらいを達成するために、話し合い、協力し合い、自分の役割を果たそうと取り組んでいました。

これは、まさしくこれからの時代を生き抜く子どもたちに必要な力ではないかと思いました。今回の学習指導要領の改訂では、今後10年の社会の変化の予測が難しい現状を踏まえ、どんなに社会が変化したとしても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動しながら、答えのない問題に挑み、周りの人とも協力して解決



できる力を身に付けるとしています。まさしく南小ではこのような目指す子どもの姿が実現していたのです。

では、どのようなことが今回の子どもの姿につながったのでしょうか。様々な要因はあると思いますが、大きく3つにまとめました。

- ①計画や運営は教師と始めるが、徐々に子どもが活躍する場とした→主役は子ども
- ②子どもが自己選択・自己決定をしていた→責任のある取組
- ③互いに認め合っていた→自信、喜びのある活動の実現

活動を通して、自己有用感が高まっていたのではないかと推察します。

未来を生きる子どもが上述の①～③のような経験を、子どもが生きる環境である地域、家庭、学校などで継続していくことが大切だと考えます。子どもはいずれ成長します。私たち大人を凌駕していくときが来ます。(個人的ですが、教え込まれて育った私の5、6年生のころよりも今の子どもたちは、はるかにすばらしいです。)このことを私たちは喜びとして感じ、称賛することが求められのだと思います。

これからも子どもが生き生きと学ぶ学校となるよう努めていきます。今後も地域、家庭の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

自分の力を存分に発揮しました！

○前島 密 ふれあいハガキコンクール

佳作 6年 内山 幸佳さん、矢野 遙さん 4年 矢野 結さん
 特別賞 6年 内山 咲彩さん

○新大全国競書大会

特選 4年 矢野 結さん 準特選 6年 渡邊 色葉さん

12月の予定

1	木	個別面談(2日目)	17	土	
2	金	個別面談(3日目)	18	日	
3	土		19	月	
4	日		20	火	
5	月	委員会(2学期最終)	21	水	給食後下校
6	火		22	木	給食後下校
7	水		23	金	2学期終業式
8	木		24	土	冬季休業
9	金	地域子ども会 集団下校	25	日	
10	土		26	月	
11	日		27	火	
12	月		28	水	
13	火		29	木	閉庁日
14	水	ベルマーク回収	30	金	閉庁日
15	木		31	土	
16	金				

